

インターバンクの声（2015年3月26日）

週明け月曜日の下げ幅こそ僅かだったが、一昨日、昨日とニューヨーク株式市場の下げ幅が日を追って拡大している。昨日発表された2月耐久財受注の結果が市場予想を大きく下回る2カ月ぶりのマイナスとなったことで、連日の低調な米経済指標結果にいよいよ景気の先行き警戒感が強まってきた格好だ。26日には大きな指標発表予定はないが、明日27日には米第4・四半期GDP確報値の発表があり、結果によっては週末さらに株価を押し下げて終えることになる可能性もある。ドル相場と株価の関連性が薄れているとはいえ、昨夜は対ユーロや対豪ドル価格が強めに推移したのが興味深い。もっとも今週は週初からユーロと豪ドルがドルに対して値を戻す動きとなっており、しかもそれぞれ1.10ドルや0.80ドルといった節目レベルを超えたり近づいたりしていることも影響していたのだろう。米系の大手金融機関を中心に足許のドル相場予想を急激にドル安に修正し始めているのを目にするが、確かに相場に変調が起こる兆しも感じられており、気が休まらない本邦期末期初と四半期変わりの時期になりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。